

# 「シタ」になって、物語の一場面を書いてみよう

教材：「シンシュン」（光村図書）

場面の展開や登場人物の関係の変化について捉えたことを踏まえて、  
第二の場面の後半部分を「シタ」の視点で書き換えてみる。



指導のねらい

登場人物の相互関係や心情変化を描写から読み取り、事象や行為を表す言葉を使って表現することで、語感を磨き語彙を豊かにする。学習のまとめの時間に書かせる。

- 根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。(B(1)ウ)
- 事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して語や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。(知識及び技能(1)ウ)

A……心情表現の言葉や心情の変化を捉えた表現を、伝わる言葉で「シタ」の気持ちで表現し、コンパクトに書き換えられている。

B……心情表現の言葉に着目して「シタ」の気持ちで書き換えられている。

C……「シタ」の気持ちになって表現されていない。



評価の例

※「主体的に学習に取り組む態度」

「シンシュン」以外の同級生で、2人の関係に気がついた生徒の視点のがき新聞の制作を行う。

→次のページに続く

<p>あの時からだ。シンシュンの笑顔も心ななくなったのは。国語の後、いつものように話しかけてきたのに、途中から作り笑いのような表情になった。本当は、違うことを言いたかったのかな。昨日も、今日も、一緒にいるけど、一緒にいない。そんな気がする。</p>		<p>すれ違 い</p>	<p>シンタ新聞</p>
<p>何を話したらいいんだろ。以前は何も考えずに話していた。僕たちは二人で一つだ、たんだ、あう、あの作り笑いをした時、シンシュンは違ふことを考えたのかな？もしかあると二人の意見は違うて、たのがなあ。もう、シンシュンでいいないのかなあ、違う、シンシュンは、二人で一つになるんじゃないか？</p>	<p>何を話したらいいんだろ。以前は何も考えずに話していた。僕たちは二人で一つだ、たんだ、あう、あの作り笑いをした時、シンシュンは違ふことを考えたのかな？もしかあると二人の意見は違うて、たのがなあ。もう、シンシュンでいいないのかなあ、違う、シンシュンは、二人で一つになるんじゃないか？</p>	<p>何を話したらいいんだろ。以前は何も考えずに話していた。僕たちは二人で一つだ、たんだ、あう、あの作り笑いをした時、シンシュンは違ふことを考えたのかな？もしかあると二人の意見は違うて、たのがなあ。もう、シンシュンでいいないのかなあ、違う、シンシュンは、二人で一つになるんじゃないか？</p>	<p>何を話したらいいんだろ。以前は何も考えずに話していた。僕たちは二人で一つだ、たんだ、あう、あの作り笑いをした時、シンシュンは違ふことを考えたのかな？もしかあると二人の意見は違うて、たのがなあ。もう、シンシュンでいいないのかなあ、違う、シンシュンは、二人で一つになるんじゃないか？</p>
<p>編集 後記</p> <p>独り言のように書いたら、シンシュンと同じ様な感じになりすぎるかも、一つが経験してくる話になりました。</p>	<p>編集 後記</p> <p>独り言のように書いたら、シンシュンと同じ様な感じになりすぎるかも、一つが経験してくる話になりました。</p>	<p>編集 後記</p> <p>独り言のように書いたら、シンシュンと同じ様な感じになりすぎるかも、一つが経験してくる話になりました。</p>	<p>編集 後記</p> <p>独り言のように書いたら、シンシュンと同じ様な感じになりすぎるかも、一つが経験してくる話になりました。</p>

① 導入（課題の説明）・・・・・・・・・・ 5分

② はがき新聞の作り方説明・・・・・・・・ 10分

- ・ テレビやタブレットで作成例を見せる。
- ・ 定規を使って、ボールペンで外枠に線を引くよう指導する。



時間配分  
(目安)

③ はがき新聞制作・・・・・・・・・・ 30分

- ・ 最後に「編集後記」としてはがき新聞を作った感想を書かせる。
- ・ 今回が初めての場合は、A5判6ミリ（理想教育財団助成品）が適している。（マス目に合わせて書くのが苦手な生徒がいる場合）

④ 振り返り・・・・・・・・・・ 5分

- ・ 早く出来た生徒は、挿絵に色を付ける。全部のマスが埋められない生徒には、挿絵を書いて埋めるなどの声かけをする。
- ・ ミテミテに入れて教室に掲示する。1週間鑑賞の時間を設けて、1人5枚の付箋を渡して感想と名前を記入させる。

#### 学びを広げるポイント

- ミテミテ（理想教育財団助成品）に入れて互いに感想を述べ合う。感想を読むことで、自分の理解との相違にも気がつく。また、「同級生」の視点の特別版があると、客観的な視点で見ることも気がつくようになる。

# 「シンタ」になって、物語の一場面を書いてみよう

「シンシュン」は、「シュンタ」の視点で書かれている。

シュンタとシンタ、2人(?)の心の変化が見られる第二場面の後半(p24 10行目~)について「シンタ」の視点で書いてみよう。



## はがき新聞の作り方



教材：「シンシュン」(光村図書)

- レイアウトの例を参考に、定規を使って、ボールペンで丁寧に枠の線を引きましょう。
- レイアウトの例を参考に挿絵を書くところを囲みましょう。
- 新聞のタイトル(題字)を右横上に太めに書きましょう。  
(授業の中で決まっていなければ、自分で考えて付けましょう)
- 「発行者」(タイトルの下枠)に横書きで名前を書きましょう。
- 学習してきたことを振り返り、書きたいことをノートに簡単に書き出してみましょう。  
(使いたい言葉や気持ちを書き出し、それを表す言葉を書き出す)
- 最初の三行は空けましょう。(見出しの場所)

→次のページに続きます。

### 準備するもの

国語の教科書、ノート、鉛筆(下書き)、消しゴム、ボールペン(黒)、定規、彩色用のペンや色鉛筆など

5-T-1 公益財団法人 理想教育財団

7 話し言葉で、「シンタ」の立場からみた「シュンタ」との関係について「いつ」「どこから」「なぜ」気がついたのか、自分では「どのように」「だれが」何か行動をおこせばいいと思っているのか、という「5W1H」の視点も入れながら書きましょう。

8 編集後記（はがき新聞を作った感想）は50字です。

9 書けたら、読み返す。誤字脱字、表現のおかしなところはないか確認する。句読点の多い少ないも確認する。（句点「。」は40字程度で1つ）

10 書き終えてから、見出しを考えましょう。

悪い例)

- ・「シンタ」の気持ち
- ・「シンタ」になって
- ・「シンタ」の場合は…

何を書いたかという説明ではなく、この新聞に何が書かれてあるのか9文字程度で表すこと。新聞の見出しは、一番言いたいこと、驚いたこと、すごいこと、を書きます。見出しを見ただけで内容が分かるくらいの言葉を使います。見出しに、「…」は×です。「～です」「～だ」も×です。内容を書き終えた後で書きましょう。

11 時間があれば、枠の外側、題字、見出し、挿絵をカラーにしてみましよう。